

平成26年(2014年)3月期 第2四半期 決算説明会

2013年11月29日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

目 次

- I. 平成26年3月期 第2四半期業績
および通期業績予想
- II. 平成26年3月期 第2四半期
SECグループ各社 事業報告
- III. SECグループの今後の戦略

Ⅰ．平成26年3月期 第2四半期業績
および 通期業績予想

■損益計算書 (連結)

(単位: 百万円)

	平成25年3月期 第2四半期累計 実績	平成26年3月期 第2四半期累計 実績	前年同四半期比	
売上高	7,343	8,112	768	10.5%
営業利益	151	359	207	136.5%
経常利益	141	377	236	166.7%
四半期純利益	59	203	143	240.0%
一株当たり四半期純利益	7円80銭	13円60銭		

売 上 高

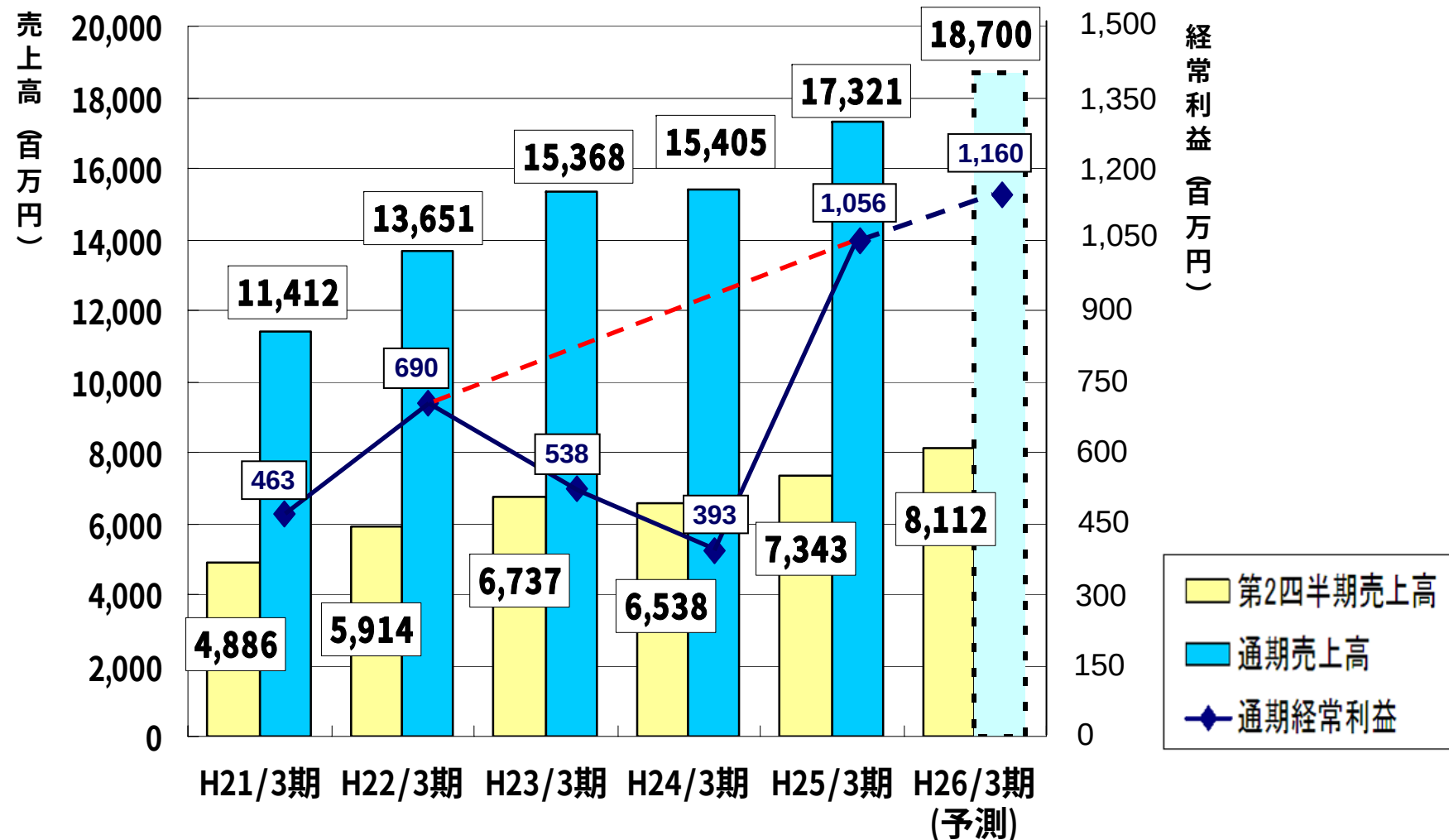
- 成長市場としての「補修・補強市場」への積極的な事業展開。
- 海外(ベトナム)建設市場での事業展開(ハロン～ハイフォン道路Bach Dang橋整備事業)。
- PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ = 公民連携)への積極的な取組。
- 新製品開発: 超高引張強度コンクリート「ESCON」の研究開発。
- 事業拡大のためのM&Aによる新事業分野の開拓。
- 東日本大震災からの復興に呼応するグループの事業展開。

利 益

- 公共工事の景気浮揚策の追い風などから、エスイーおよび各連結子会社における受注・工事量が活況化。
- 工事現場での職人不足による影響が潜在化しているなか、現場での施工性が高い工場製品の売上が増加したことによる利益の増加。
- 円安や原材料価格上昇などの圧力がかかるなか、製造コストの抑制および低減の努力を継続。

■売上・経常利益の推移

(連結) 売上高・経常利益の推移 (平成21年3月期～平成26年3月期 (予))



■セグメント別売上高

(単位:百万円)

区 分	平成25年3月期 第2四半期累計 実績		平成26年3月期 第2四半期累計 実績		前年同四半期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比		
建設用資機材の製造・販売	4,280	58.3%	4,700	57.9%	419	9.8%
建築用資材の製造・販売	2,355	32.1%	2,448	30.2%	93	4.0%
建設コンサルタント	276	3.8%	271	3.3%	△5	△2.1%
補修・補強工事	426	5.8%	692	8.5%	265	62.2%
その他	3	0.1%	—	—	△3	—
合 計	7,343	100.0%	8,112	100.0%	768	10.5%

- 売上高は百万円未満を端数処理 (切捨て) しておりますので、内訳数値と合計値が一致しない場合があります。
- 構成比は小数点第二位を四捨五入しておりますので、内訳数値と合計値が一致しない場合があります。

■貸借対照表 (連結)

(単位:百万円)

	平成25年3月期末	平成26年3月期 第2四半期末	前期末比較	
流動資産	14,227	12,293	△1,934	△ 13.6%
固定資産	5,522	5,541	18	0.3%
資産 合計	19,750	17,834	△ 1,915	△ 9.7%
流動負債	8,226	7,100	△ 1,125	△ 13.7%
固定負債	4,503	3,676	△ 826	△ 18.4%
負債 合計	12,729	10,776	△ 1,952	△ 15.3%
純資産 合計	7,021	7,057	36	0.5%
負債・純資産 合計	19,750	17,834	△ 1,915	△ 9.7%

(平成25年3月期末)

(平成26年3月期 第2四半期末)

■ 自己資本比率

35.5%

39.5%

■ 一株当たり純資産

469円10銭

471円68銭

■CF計算書 (連結)

(単位:百万円)

	平成25年3月期 第2四半期累計 実績	平成26年3月期 第2四半期累計 実績	前年同四半期比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	667	866	198	29.7%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△91	△310	△219	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△885	△1,228	△343	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0	0	—
現金及び現金同等物 増減額 (△は減少)	△308	△671	△363	—
現金及び現金同等物 期首残高	3,632	4,368	735	20.3%
現金及び現金同等物 四半期末残高	3,324	3,696	372	11.2%

- [営業活動によるCF] 増加要因:税金等調整前四半期純利益3億60百万円、売上債権の減少額16億51百万円 等
減少要因:仕入債務の減少額5億24百万円、法人税等の支払額3億72百万円 等
- [投資活動によるCF] 減少要因:定期預金の預入による支出1億89百万円、有形固定資産取得による支出86百万円、
投資有価証券取得による支出33百万円 等
- [財務活動によるCF] 減少要因:長期借入の返済による支出8億7百万円、社債の償還による支出1億67百万円、
配当金の支払2億23百万円 等

■平成26年3月期 業績予想 (連結)

(単位:百万円)

	平成25年3月期 通期 実績	平成26年3月期 通期 予測	前年同期比	
売上高	17,321	18,700	1,378	8.0%
営業利益	1,066	1,129	62	5.9%
経常利益	1,056	1,160	103	9.8%
当期純利益	612	670	57	9.3%

● 平成26年3月期 期末配当金 1株当たり 20 円 (予定)

<一株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移 (連結) >

	平成21.3期	平成22.3期	平成23.3期	平成24.3期	平成25.3期	平成26.3期 (予測)
一株当たり 当期純利益 (円)	31.77	51.68	41.49	33.33	64.55 ※1(40.99)	44.80
※2 一株当たり 配当金 (円)	20 (10)	20 (10)	20 (10)	20 (10)	15	20
配当性向 (%)	63.0	38.7	48.2	60.0	23.2	44.6

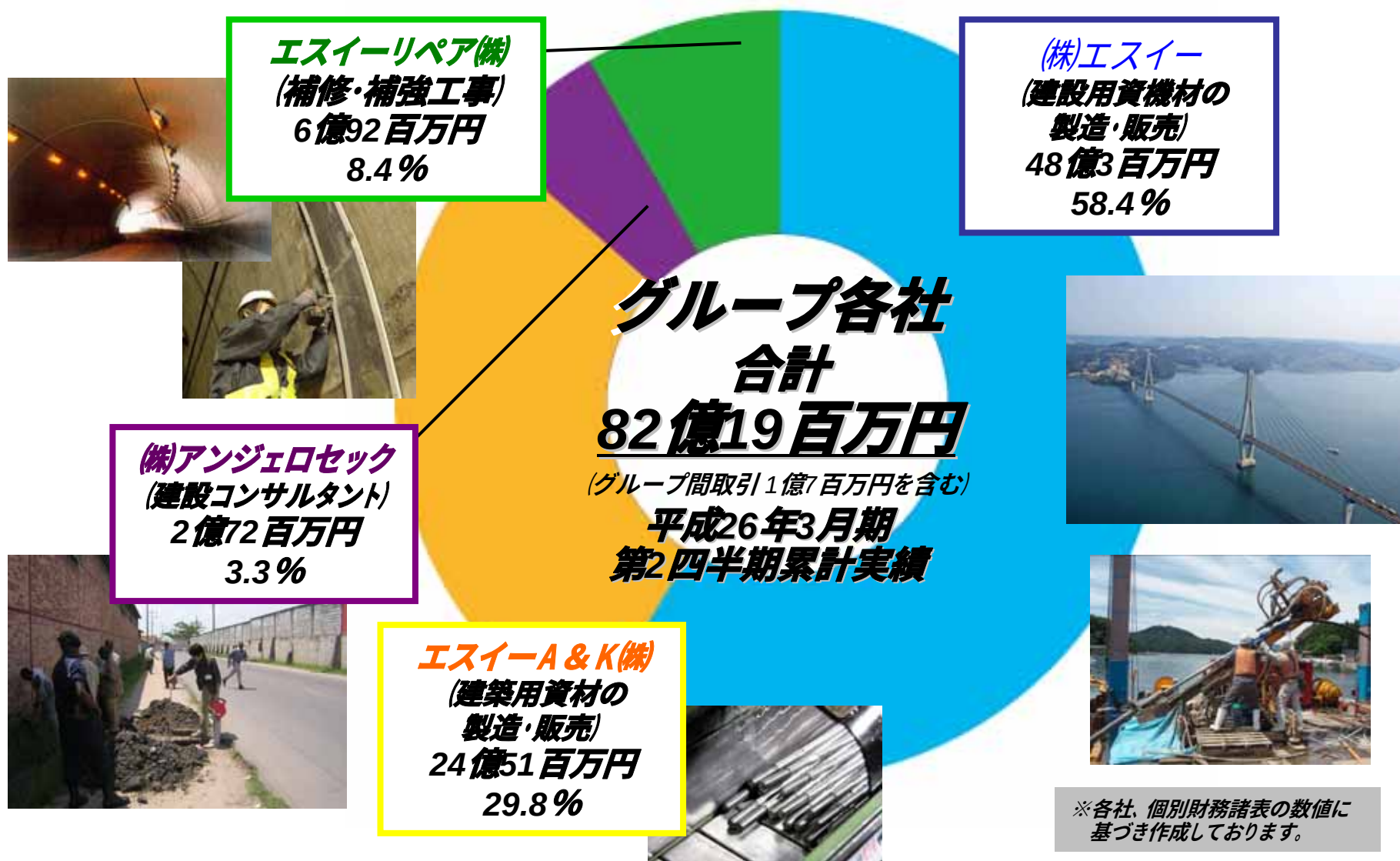
※1 括弧内の数値は、平成25年1月に実施した株主割当増資による新株式を含む期末発行済株式数から期末自己株式を差し引いた株数で換算した参考数値です。

※2 括弧内の数値は、平成25年1月に1:1で実施した株主割当増資の割当株式数を加算した株式数を基準として割り戻した参考金額になります。



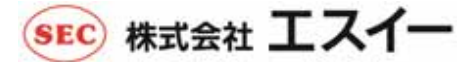
II. 平成26年3月期 第2四半期 SECグループ各社 事業報告

SECグループ各社 売上構成



株式会社エスイー

(建設用資機材の製造・販売事業)



◆ 株式会社エスイー

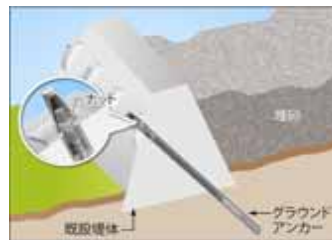
- 売上高 48億3百万円 ○経常利益 2億80百万円
- － 政権交代に伴う公共工事の景気浮揚策の追い風もあり、増収増益を達成
- － 環境防災分野
 - ▶ 一昨年近畿地区で発生した台風12号に伴う復旧工事での製品納入
 - ▶ 法面、港湾、砂防堰堤などの工事に使用される「アンカー」の販売が順調に推移
 - ▶ 現場の職人不足等の影響があるなか、高品質かつ軽量の工場製品である「KIT受圧板」が現場施工省力化の優位性から売上高が増加
- － 橋梁構造分野
 - ▶ 前年同期は個別大型物件があったが今期は同等の物件がないため、前年同期に比べ売上高は減少

● 環境防災分野



■アンカーによる港湾の岸壁補強

- ◆アンカー ◆落橋防止装置
- ◆KIT受圧板 ◆控索 など



■『砂防堰堤補強アンカー工法』(技審証第1202号) が(一財) 砂防・地すべり技術センターより、建設技術審査証明書を取得

● 橋梁構造分野



■PC用ケーブル (FUT) および落橋防止装置を採用

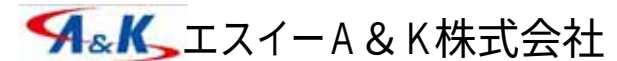
- ◆斜材 ◆PC用ケーブル
- ◆外ケーブル など



■首都高の補修・補強 (外ケーブル、落橋防止装置)

■ エスイーA & K株式会社

(建築用資材の製造・販売事業)

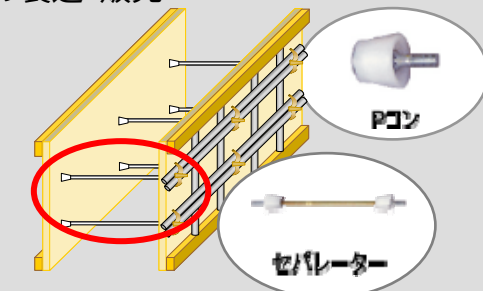


◆ エスイーA & K株式会社

○売上高 24億51百万円 ○経常利益 1億81百万円

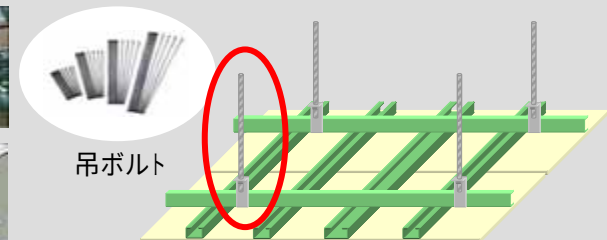
- ー 東北・首都圏市場とも慢性的な職人不足による工事遅延が生じる一方、建築工事量は増加傾向 ⇒ 前期に引き続き**増収増益**を達成
- ー 特に首都圏市場における資材販売が順調に推移
- ー 円安の影響と原材料価格上昇のなか製造コストの抑制および低減努力

● 仮設建材事業 【関連指標】首都圏新設マンション着工数
コンクリートを流し込むための型枠(建物の土台部分)を仮設する際に使用する製品の製造・販売



<マンション、住宅など建設時の土台部分>

● 内装建材事業 【関連指標】非住居着工棟数(民間)
コンクリートのビル等に使用される、軽量の天井下地を吊り下げるための吊りボルト・セットボルトやその他建材の製造・販売



<オフィス、商業ビルなどの軽天用吊材>

関連指標の回復傾向 + 復旧・復興需要 → **民需** の取り込み

株式会社アンジェロセック (建設コンサルタント事業)



◆ 株式会社アンジェロセック

○売上高 2億72百万円 ○経常損失 48百万円

ー 継続受注案件の消化活動を展開

- ▶ 施工管理業務「コンゴ民主共和国キンシャサ市ホワ・ルー通り改修4車線化SV」
- ▶ 現地調査業務「東ティモール国全国国道網の脆弱性に係る情報収集・確認調査」

● 多様化する市場ニーズへの適応

調査、評価、M/P、F/S、設計、施工管理などの既存業務内容に加え、新たなコンサルティング業務展開を推進。

● 事業分野の拡大

既存分野である道路、橋梁、鉄道、交通、水、エネルギーの拡大と新規分野の動向を踏まえ、CO2削減、キャパビル（Capacity Building: 能力開発）などの分野への事業範囲拡大を図り、総合コンサルタントとしての地位を確立する。

● 新規顧客の開拓

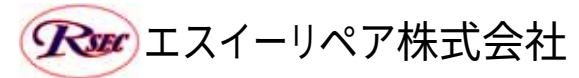
政府系の既存顧客（外務省、環境省、経産省、国交省など）との関係性維持とともに、民間企業や国際機関からの受注獲得も目指す。



■チュニジア共和国「南部地下水淡水化計画」

施設能力: 1,791m³/日 (淡水化量)、210kW (太陽光発電量)
施設の完成式典が6月21日在チュニジア日本大使、チュニジア政府農業大臣等を招いて実施された。

■ エスイーリペア株式会社 (補修・補強工事業)



◆ エスイーリペア株式会社

○売上高 6億92百万円

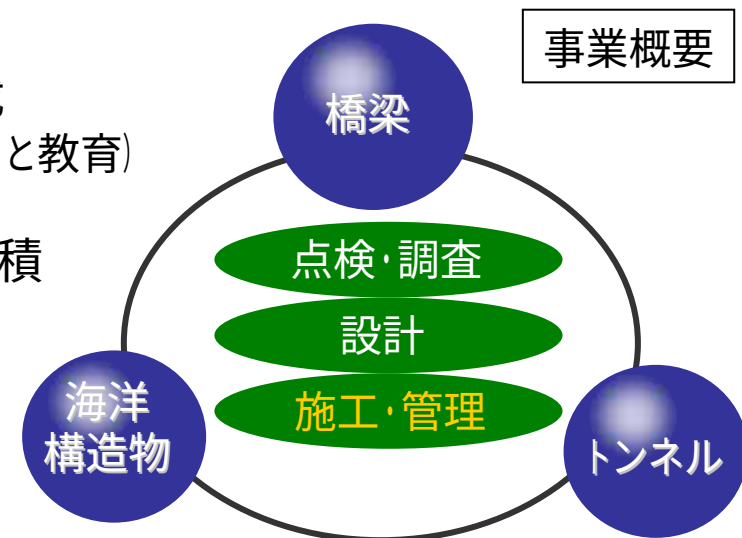
○経常利益 57百万円

- ー 自民党による「国土強靱化」推進と社会インフラ老朽化の進展を背景に積極的な事業展開を実施
- ー 事業エリアの拡大策として近畿圏への進出を推進
- ー 建設需要全体の増加による資材費の高騰や労務・技術者不足の問題への対応

● 補修・補強専門の施工会社

- ー 昨年のM&Aによる子会社化に伴って事業基盤を形成
- ー 工事体制を強化 (現場管理体制強化、技術者の採用と教育)

● 九州地域を中心に、元請受注の実績も着実に蓄積





III. SECグループの今後の戦略



【建設業界をとりまく市場環境】

短期

- ・自民党政権による経済・金融施策の実施 「アベノミクス」「国土強靱化」など
- ・公共事業15ヵ月予算 **約8.6兆円** (12年度大型補正予算+13年度予算)

中・長期 (継続)

- ・2020年 東京オリンピック開催
- ・国債発行残高の増加:国や地方自治体の財政圧迫
13年度末732兆円 ⇒ 22年度末1,014兆円見込み (財務省発表より)
- ・1970年代に整備された橋梁、トンネル、道路等が一齐に更新時期到来:老朽化対策
- ・地震や台風などの大型自然災害の発生:防災対策の必要性
- ・熟練工の高齢化と若手入職者の減少 (求人は急増):人材不足、労務費高騰
- ・少子高齢化と労働人口の減少:国内市場の縮小傾向

SECグループでは、
① 既存事業の安定 と ② 3つの成長戦略 を推進

① 緊急性の高い課題への対応： **既存事業の安定**
これまで培ってきた技術とノウハウを生かし、インフラ老朽化対策や
事前の防災・減災対策等の緊急課題に対応し、国民の命と暮らしを
守るための公共事業分野へ引き続き注力していく。

② 中長期的な課題への対応： **3つの成長戦略**

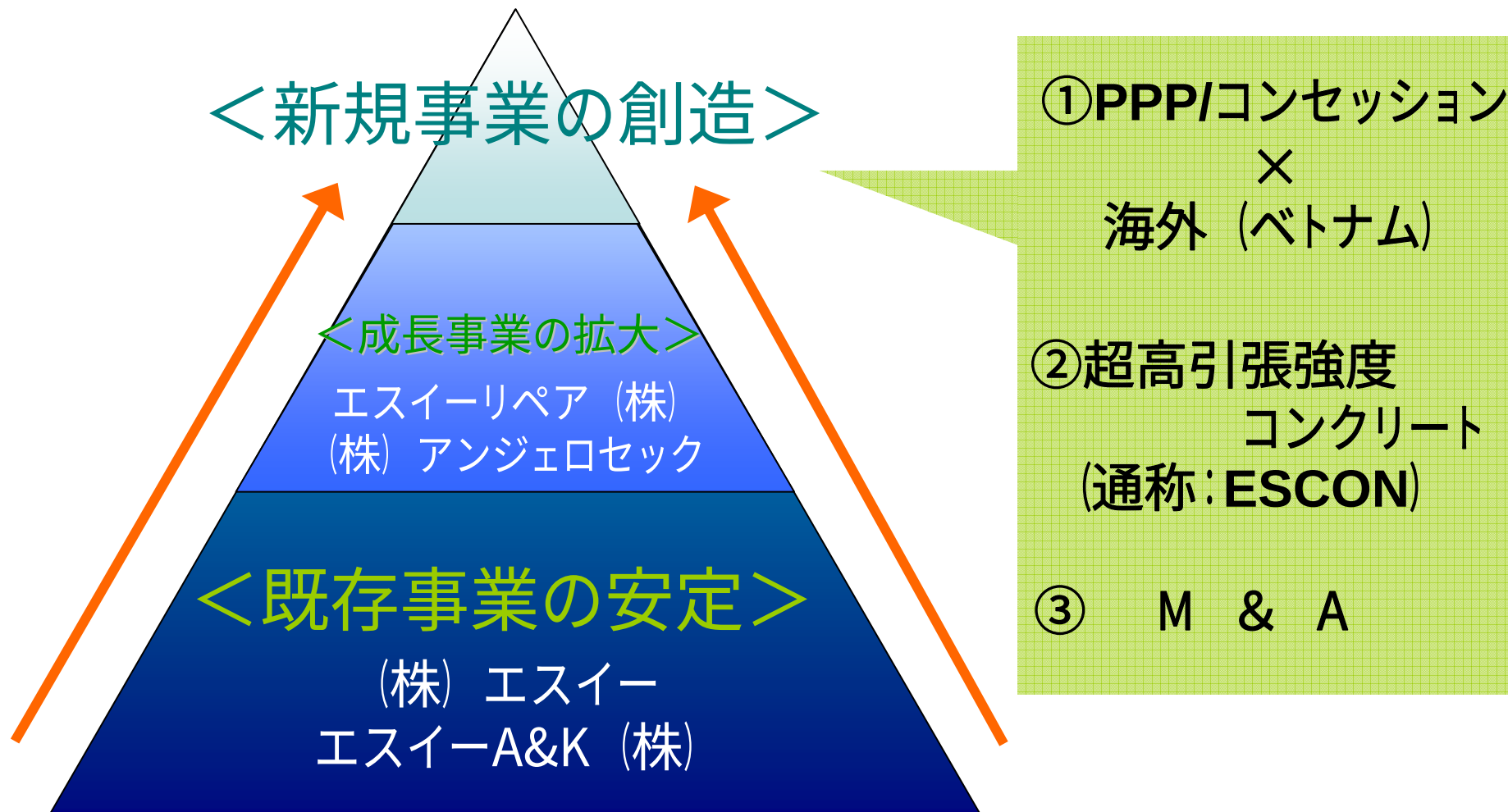
・縮小する国内建設市場 → **海外市場への展開**

・行政の財政圧迫につき、民間資金の活用 → **PPP (公民連携) の推進**

・老朽化する社会インフラ対策 → **構造物の長寿命化への挑戦**

→ さらに、上記事業の拡大と発展のための成長可能性を模索

SECグループの成長戦略



成長戦略の核の1つであるPPP（公民連携）戦略

1. **(株)エスイーは社会インフラの新設や老朽化対策へのPPPコンセッションの活用により、我が国では最初に積極的に取り組んできた。**
2. **ベトナム クアンニン省に「Bach Dang (バックダン) 橋」建設PPP(BOT)を提案し、10月に「投資家指名」を受けた。**
3. **国内では、国土強靱化を社会インフラ老朽化対策へのPPPコンセッション提案の他、数件のPPPプロジェクトに取り組んでいる。**

◆ベトナム PPP (BOT方式) による事業提案

ベトナム子会社であるVJECを中心に、エスイーおよびアンジェロセックで連携して事業提案を実施。

●『バックダン橋』整備 (PPPプロジェクトの提案) およびダンニャマック地区開発

- ・ハロンとハイフォンを結ぶ高速道路25kmのうち、橋梁部分5kmの建設工事およびダンニャマック地区の土地開発案件。
- ・2013年 7月 【ダンニャマック地区開発】について、経済産業省より「平成25年度新興国での新中間層獲得による日本再生事業 (アクションプラン実現に向けた個別のインフラ整備等のための事業実施可能性調査)」に採択。
- ・2013年10月 【バックダン橋】について、JICAより「協力準備調査 (PPPインフラ事業)」に採択。



＜ベトナム・クアンニン省との実施協力のための覚書
調印式の様子＞

＜上記以外に進行中のベトナム案件＞

- 『ハノイーハイフォン間高速道路 施工管理業務』
 - ー 全長110kmの施工管理 (建設は中国、韓国企業)
- 『Bai Chay (バイチャイ) 橋 法面对策調査設計業務』
 - ー JICAより受注
 - ー IDI (国際建設技術協会) との連携

地理的な位置関係

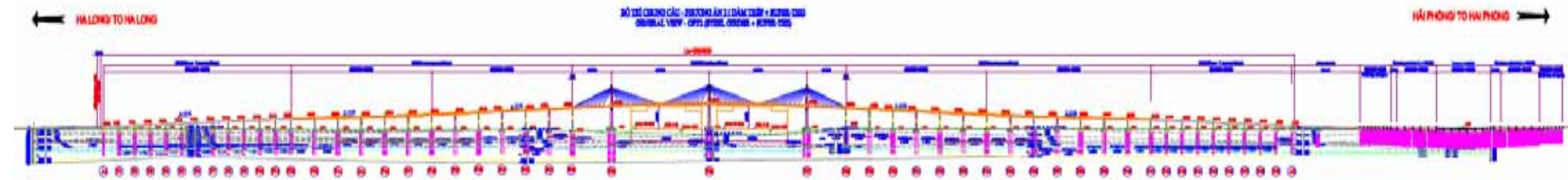
◆ベトナムにおけるプロジェクト現場



- 総事業費 360億円
- 工事費 240億円
- 工期 2014年～2017年
- ベトナム政府 クアンニン省
- ベトナム北部大動脈の形成、産業、経済開発の推進と日本からの工場進出 (世界遺産のハロン湾観光ビジネスの推進)

バックダン橋およびアプローチ道路

SEC 株式会社 エスイー



■ バックダン橋・プロジェクトの現状 株式会社 エスイー

- ・バックダン橋・プロジェクトは、経済産業省「平成24年度インフラ・システム輸出促進調査等事業（民活インフラ案件）形成等調査」に採択されました。
- ・本年2月14日に「経済産業省F/S」の最終報告書を経産省に提出しました。
- ・現在、ベトナム・クアンニン省（以下「QN省」）と、事業化に向けて交渉を進めています。
- ・同時に、ベトナム計画投資省に「投資許可申請書」を提出する予定です。

QN省との交渉（11月20日 時点）；

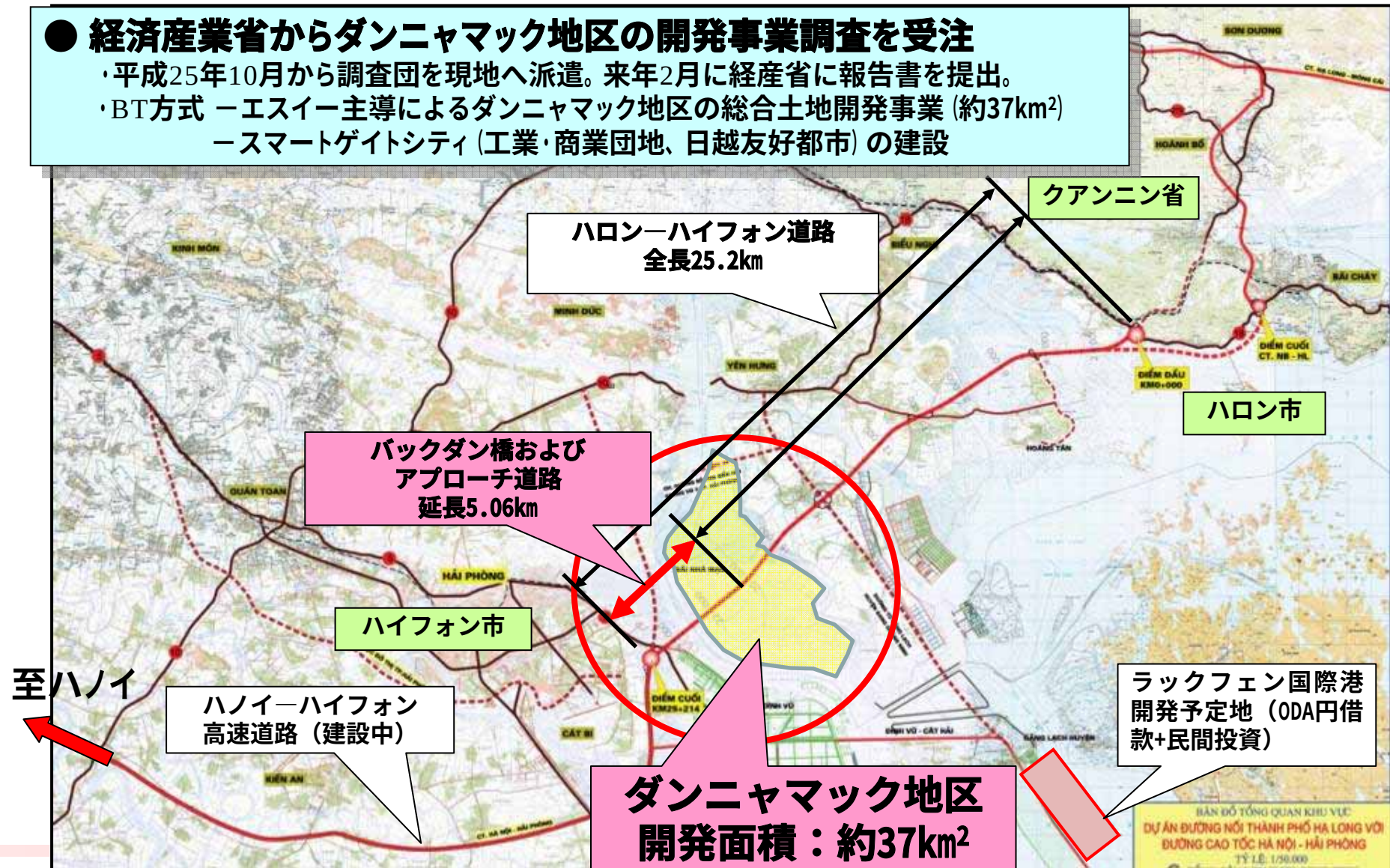
- ・QN省から「セキュリティーパッケージ」（収入保証、返済保証）を保証済み。
- ・10月 QN省から正式「投資家指名」済み。
- ・10月 QN省と「仮契約」調印済み。

収入保証：実通行料収入が、予測収入を下回った場合、差額分50%をQN省が保証
返済保証：QN省が50億円の「無利子劣後融資」を保証（年間10億円 5年間）

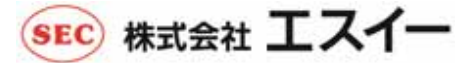
ダンニャマック地区開発の概要

● 経済産業省からダンニャマック地区の開発事業調査を受注

- ・平成25年10月から調査団を現地へ派遣。来年2月に経産省に報告書を提出。
- ・BT方式 —エスイー主導によるダンニャマック地区の総合土地開発事業 (約37km²)
—スマートゲイトシティ (工業・商業団地、日越友好都市) の建設



■ ESCON (超高引張強度コンクリート) の研究開発



● 「E S C O N」 とは

- ・超高引張強度コンクリート **E**xtra-High Tensile **S**trength **C**oncrete の略称
- ・圧縮強度、曲げ引張強度が一般的なコンクリートより高い
- ・鋼材を使用しないため腐食せず、また高い靱性からひび割れにも強く、コンクリート系構造物の超高引張強度コンクリートによる長寿命化が図れる

● 開発の背景

- ・建設現場における熟練工の激減：現場作業の負担低減と製品の品質確保が必要
⇒ **コンクリート構造物のプレキャスト化、省力化、軽量化**
- ・南海トラフ大地震、首都直下型地震などの大規模地震に対する耐震対策が急務
⇒ **財政状況が逼迫による耐震対策費の低減に対応**

○高強度コンクリートの使用により構造部材の軽量化が可能

○腐食劣化しないコンクリートの使用により耐久性が向上し、構造物の長寿命化および維持管理費・更新費の大幅な削減が可能

● コンクリート構造物の劣化原因

凍害



< RC 橋脚 >

塩害



< PC 桁 >



< RC 桁 >



道路橋の経年疲労



< RC 床版 >



■ ESCON (超高引張強度コンクリート) の研究開発

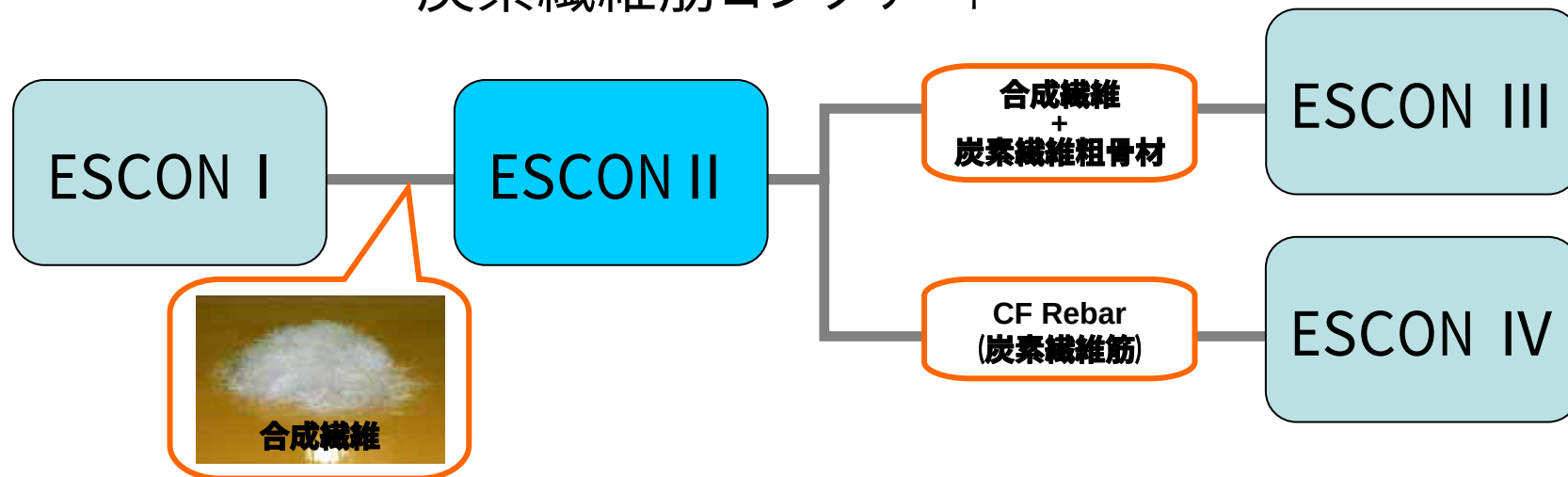
● 開発概要

ESCON I : 合成繊維を混入しないモルタル

ESCON II : 合成繊維を混入したモルタル

ESCON III : 合成繊維と炭素繊維粗骨材使用のコンクリート

ESCON IV : ESCON II にCF Rebar (炭素繊維筋) を配合した炭素繊維筋コンクリート

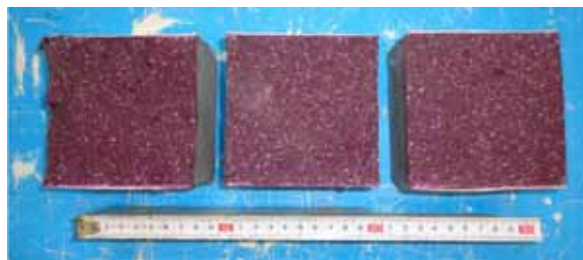


● ESCON II の特徴

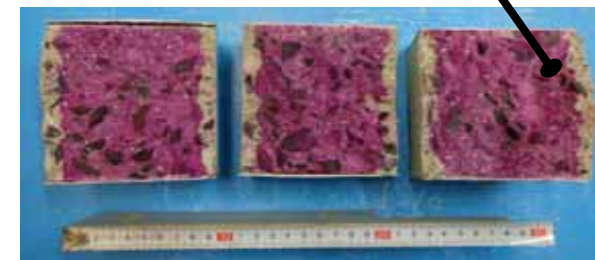
- 圧縮強度が極めて高い。: 150N/mm^2 以上
- 曲げ引張強度が極めて高い。: 20N/mm^2 以上
- 凍害抵抗性が極めて高い ⇒ 寒冷地の構造物への適用に有効
- 塩分浸透性が極めて低く、ほとんどゼロである。
⇒ 沿岸地域、凍結防止材散布地域の構造物への適用に有効
- 透水性が極めて低く、ほとんどゼロである。 ⇒ 水理構造物に有効
- 極めて中性化しにくく、透気性がほとんどゼロである。
⇒ 二酸化炭素濃度の高い環境にある構造物への適用に有効
- 耐摩耗性が高い ⇒ 滑走路や水理構造物への適用に有効

促進中性化試験結果 (13週)

緻密化された硬化体が形成されているため、透気係数も極めて小さく、通常的环境下では中性化の心配がありません。促進試験 (13週) の結果においても中性化は認められませんでした。



ESCON II



普通コンクリート

■ ESCON (超高引張強度コンクリート) の研究開発

SEC 株式会社 エスイー

● ESCON II : パッケージイメージ



ESCONプレミックスセメント



■ ESCON (超高引張強度コンクリート) の研究開発

SEC 株式会社 エスイー

ESCON III: 炭素繊維粗骨材



ESCON IV: CF Rebar (炭素繊維筋)



●ESCONの開発状況

STEP① コンクリートの超高強度化 (特許出願済み)

- ・基礎となるコンクリートの強度および耐久性等の基本性能を確認
→ 製造方法の確立
テストプラントの開発

STEP② 炭素繊維とセメントペーストとの親和性の改善

- ・炭素繊維との親和性について、基礎実験が終了
→ 現在、製品化に向けて開発中

超高引張強度コンクリートの活用：用途開発・検討

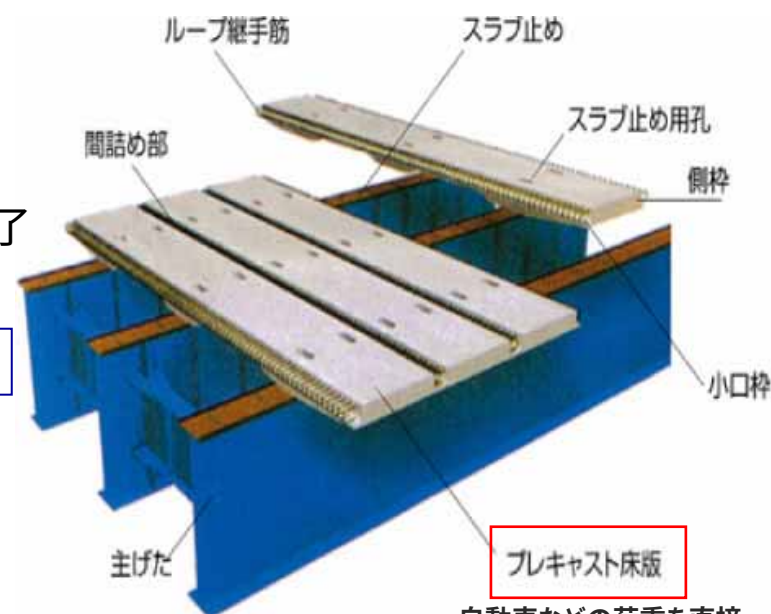
STEP③

●プレキャスト床版への活用

：厚さが薄く軽量 (0.60 / 普通コンクリート)、腐食劣化無

【プレキャスト床版とは・・・】

あらかじめ工場等で製造されたPCコンクリートの床版のことで、道路を通行する車や人の荷重を直接支える部分。道路が変形などを起こさないように主げたなどに荷重を伝達する役割を果たします。



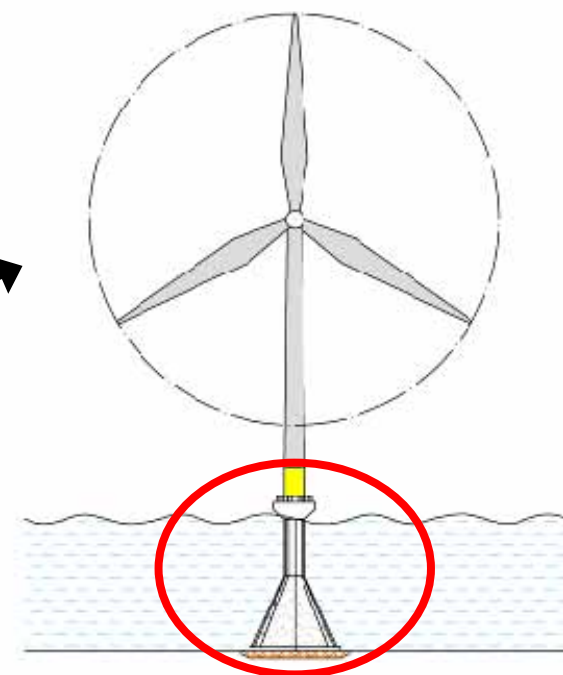
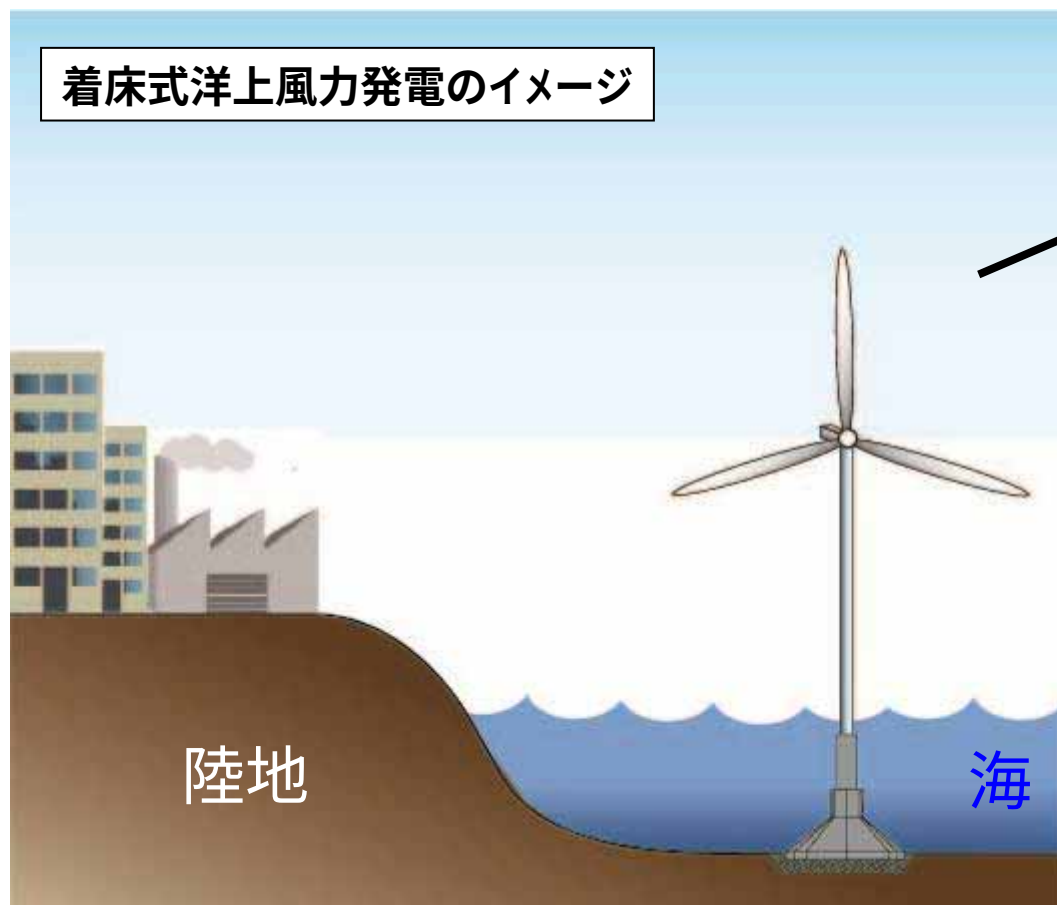
自動車などの荷重を直接受ける消耗の激しい部材

図：社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会ウェブサイトより

道路橋用プレキャスト床版への製品化を目指す

● 洋上風力発電施設への活用

着床式洋上風力発電のイメージ



ESCONは耐久性に非常に優れ、極めて高い水密性、耐摩耗性をもち、塩分浸透に対して高い抵抗性があることから、海上に設置される風力発電施設の基礎に活用できる。

■ 戦略的 M & A の推進

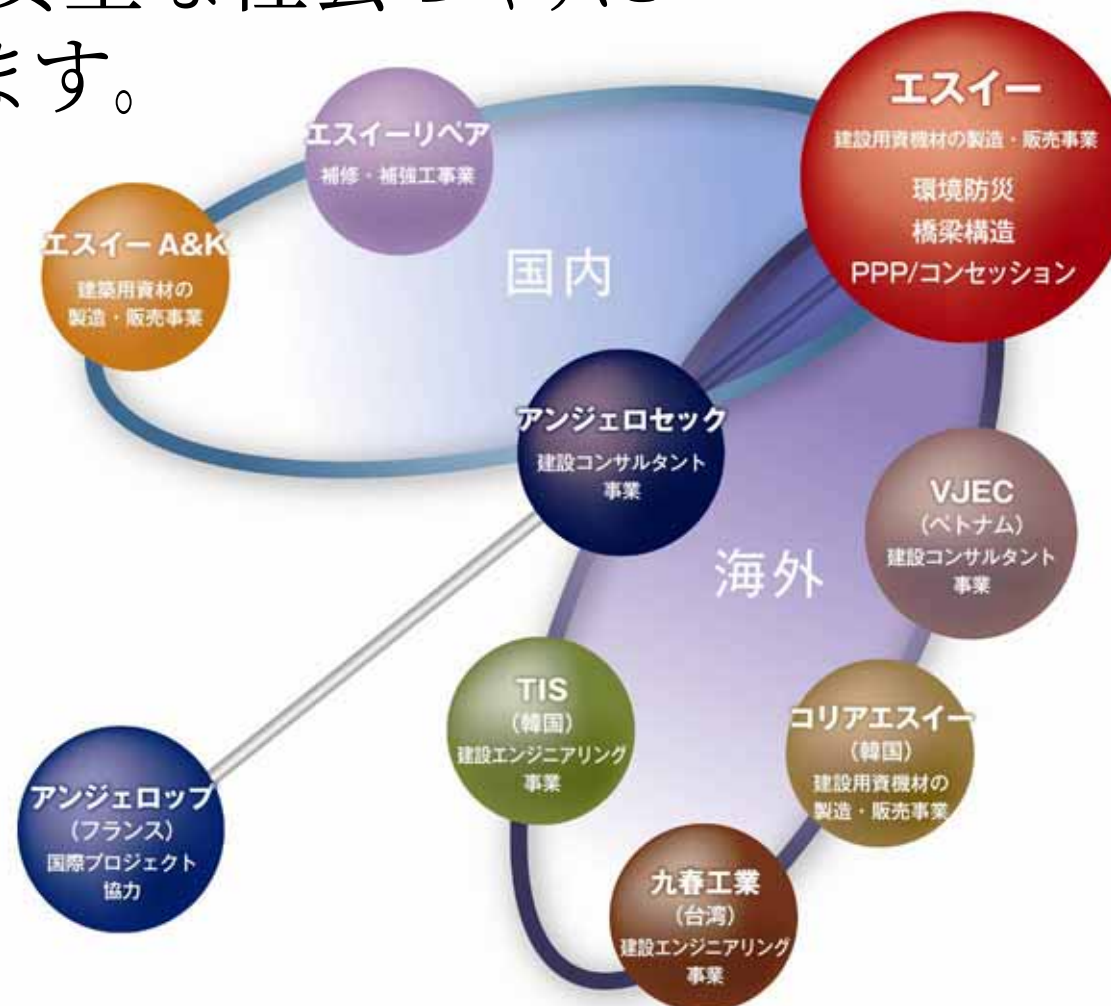
● SECグループにおける M & A 実績

- ・平成21年4月 朝日興業株式会社 (現・エスイーA&K株式会社) の
株式取得 (子会社化)
- ・平成22年1月 株式会社キョウエイ (現・エスイーA&K株式会社) の
株式取得 (子会社化)
- ・平成24年5月 株式会社仲田建設 (現・エスイーリペア株式会社) の
株式取得 (子会社化)

- ・ 建設と交通インフラ分野を中心に、他領域の事業へも市場拡大
(仏大手コンサル会社との業務提携交渉、東南アジア市場開発)
- ・ より一層の建設分野での他分野を含めた経営基盤の強化
- ・ 技術経営とイノベーション: 技術・人材・M&A → スピード重視の成長戦略

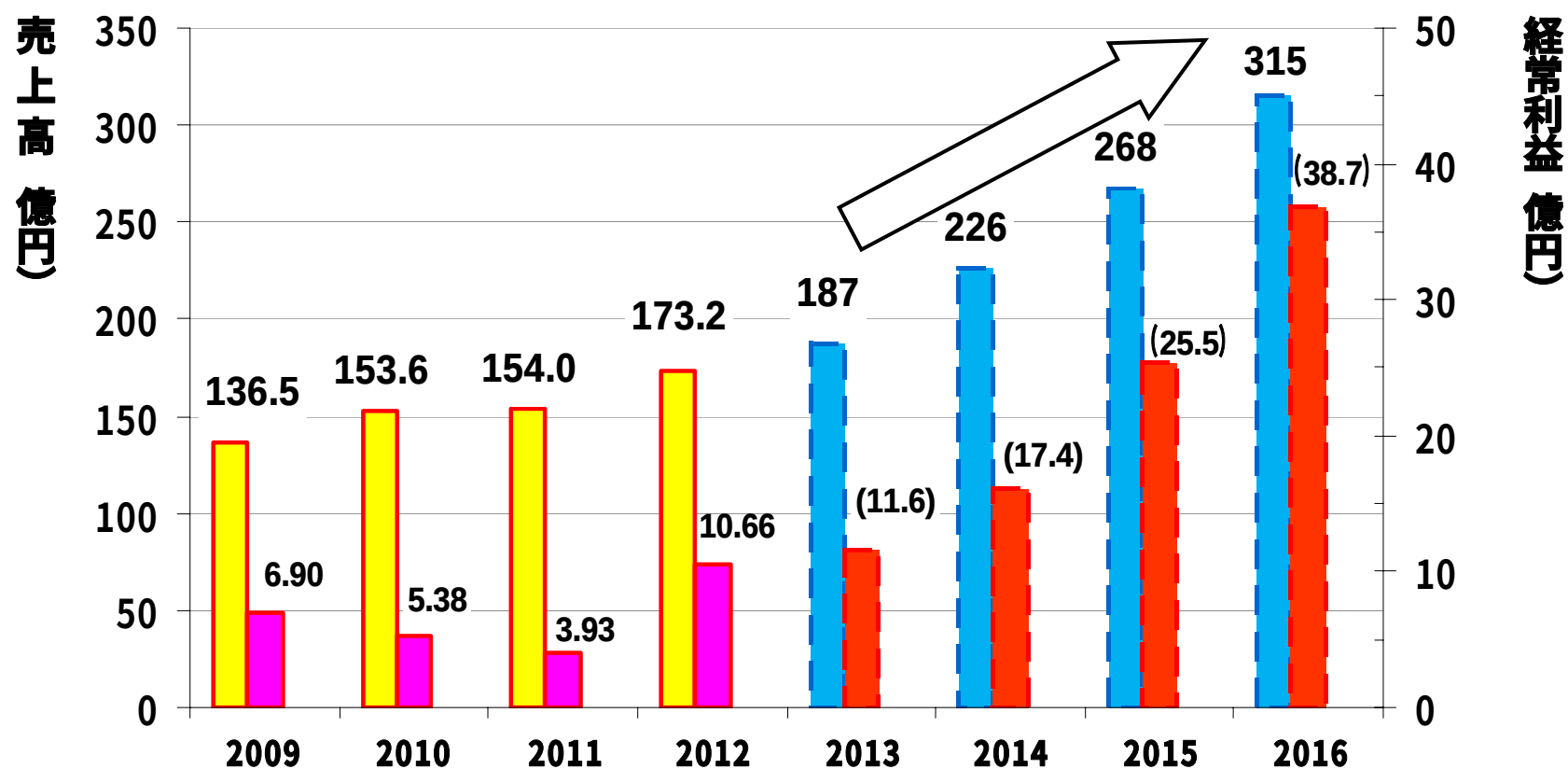
SECグループ関連会社の構成

安心で安全な社会づくりに
貢献します。



SECグループ売上／利益目標

●中期300億円化戦略（PPP、ESCON、M&A）



ご清聴ありがとうございました



将来見通しに関する記述についての詳細（ご参考）

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー